

## 臺灣電力の建設部長 新井榮吉氏

一昨年、臺灣電力會社の日月潭水力發電工事が復活して、工事界不振の折柄として、土木技術界に非常な注意を喚起した。何人が此の大工事の建設に當るであらうか、と云ふ事が第一に多數技術家の頭に浮んだ事であつた。

日本の水力發電工事も、既に三十年前後の經驗を有し、多數の發電所も竣工し、設計にも施工にも自信のある技術家が多いのであるから四つや五つの大水电工事が起されたとして、技術家に不自由する程の事はない。否寧ろ水力發電に關する土木技術家は寔に多士齊々たるの觀がある。

然し、いざ人選となると、所謂一長一短で、之は適任と言ふ程の處がない。此の間に於て大井川電力會社取締役技師長の新井榮吉氏が突如臺灣電力會社の顧問として發表されたのは一昨年の秋頃だつたかと思はれる。新井氏が顧問となつては他の何人も異議のあらう筈がない。

○

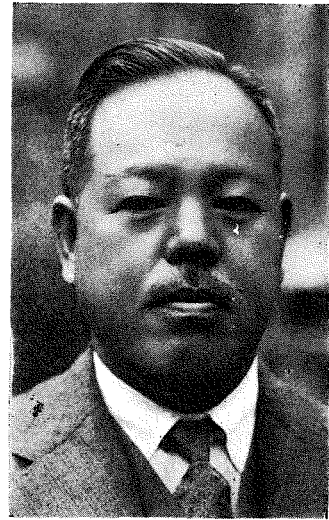
新井氏は其當時こそ大井川電力會社の取締役技師長であつたが、其以前は東京電力會社の發電工事計劃を擔當してゐた。東京電力會社と云ふのは早川電力會社や群馬電力會社が合併した會社であるから、群馬電力系の技術家も新井氏と俱に臺灣電力へ入つた。即ち現在の臺灣電力建設部は部長新井榮吉氏を初め石井建設事務所長其他何れも東京電力會社の幹部が移つたものと見ても良い。

新井氏は東京の人で、明治三十八年東大土木科出であるから、同窓としては錚々たる人物揃ひの組であるが中でも現在の鐵道次官久保田敬一氏、膠濟鐵道顧問の加賀山學氏、貴族院議員の中村謙一氏、北大教授の小川敬次郎博士、民間では南海電鐵の後藤佐彦氏、安田保善社の丹治經三氏、川崎鐵網工場の那須章彌氏其他知名の人が多し。

○

新井氏は最初東京市區改正委員會の技師となつたが、次いで名古屋市の上下水道や函館市の水道技師となつて、所謂ハイドロリック・エンジニアとしての素養が確立した。而して新井氏が愈々發電工事に花々しいスタートを切つたのは大正七年からであつた。

大正七年から同十三年の春までに新井氏が全力を注いだ工事は、早川第一及第二發電所の約三萬キロである。其當時から早川第三發電所田代川發電所、大井川發電所等の調査設計に當つてゐたが、愈々大



新井榮吉氏

正十四年の春から東京電力會社としての早川第三發電所及び田代川第一、第二發電所の工事に着手する事となつた、此等の工事は落差の大なる事實に三千尺、出力四萬キロ、而して其の水系は大井川の上流を富士川の支流たる早川に落さんとするもので、計劃と云ひ、施工と云ひ全く獨創的なもので、當時我國としては劃期的の發電工事であつた。昭和三年春此大工事が無事に竣工した時には我々も非常な喜びを以て、其工事状況を本誌に詳報した事は讀者に於ても尙ほ記憶に新なる處であらう。

○

昭和三年の春から東京電力會社が、東京電燈會社に合併され、新井氏なども一時東電理事として諸調査事業に當つてゐたが、同四年春に大井川電力會社專屬となり、其取締役技師長として六萬二千キロの大發電所の工事計劃を進めてゐたのである。斯の如く新井氏は日本の大水力工事を大正七年以來つゞけてゐる人である。一人の技術家が此丈の間斷なく大水力工事に従事してゐる事は稀有の事と云ふべきで、それだけ新井氏は近代日本のハイドロリック・エンジニアとして代表的な技術家である。

○

此丈の大工事を次から次へ進めて行くには、餘程の確實性に富んだ人でなくてはならぬ。實際新井氏は確信した處には大膽であるが、確信するまでは中々簡単にやらない。簡單は新井氏の最も嫌ふ處である。